

## 調査詳細及びデータ

### 「ADK日本人の平均調査」2011

#### <調査概要>

**【調査目的】**

日本人のライフサイクルやお金、自分・家族の評価、人付き合い、余暇・旅行、カラダなど多くの視点で日本人の平均像を把握する

**【調査地域】**

日本全国（47都道府県）

**【調査対象と回収サンプル数】**

15歳～69歳の男女 10,032人

**【調査方法】**

インターネット調査

**【調査期間】**

2011年10月5日（水）～10月11日（火）

**【調査項目（一例）】**

- ・ 預貯金・資産
- ・ 消費金額
- ・ 余暇・旅行
- ・ ビジネスマン・ウーマンの衣類・持ち物
- ・ 自分・家族評価
- ・ 人付き合い
- ・ 日本の住みやすさ評価
- ・ カラダ
- ・ ライフサイクル 他

#### 2006年の調査概要

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| <b>【調査地域】</b>         | : 日本全国（47都道府県）       |
| <b>【調査対象と回収サンプル数】</b> | : 15歳～69歳の男女 10,092s |
| <b>【調査方法】</b>         | : インターネット調査          |
| <b>【調査期間】</b>         | : 2006年11月           |

# お金に対する意識は、大幅に低下傾向、背伸びせず コツコツ貯めて身の丈で暮らす姿が浮き彫りに



お金についての回答を、2006年と2011年で比較すると、「自分に適正な年収・年俸額」は696万円(2006)→649万円(2011)で約50万円ダウンしており、控えめな回答になっています。また、「自分で車を購入する限度額」も211万円(2006)→144万円(2011)で大幅に減少しています。多くを求めず身の丈にあった生活をしようという意識がうかがえます。

また「自分の預貯金総額」は565万円(2006)→563万円(2011)でほとんど変化がなく、「へそくり」の金額は83万円(2006)→108万円(2011)と逆に増えており、コツコツ貯めている姿もうかがえます。

## <お金についての意識・実態の変化 2006 vs 2011>

対象者: 15~69才

	2006年11月	2011年10月	
年収や貯金	自分に適正な年収・年俸額 (有職者)	695.9万円	649.2万円 (▲ 46.7万円)
	自分の預貯金総額	564.9万円	562.9万円 (▲ 2.0万円)
	「へそくり」の金額	83.1万円	108.3万円 (+ 25.2万円)
住宅購入	自分で住宅を購入する物件の 契約限度額	2,099.2万円	1,100.5万円 (▲ 998.7万円)
	自分で住宅を購入する際の 親の援助額	159.3万円	136.8万円 (▲ 22.5万円)
	住宅を購入する際の住宅ローン の世帯年収比率	13.7%	10.6% (▲ 3.1%)
車購入	自分で車を購入する限度額	211.1万円	143.8万円 (▲ 67.3万円)
老後 ~死後	老後(定年退職後)に 必要な1ヶ月生活費	—	23.3万円
	自分に十分な死亡保険金額	4,882.0万円	4,002.2万円 (▲ 879.8万円)
	両親からの遺産相続額	1,722.2万円	1,294.5万円 (▲ 427.7万円)
	ガンになった際の手術・入院額	—	399.7万円
	葬儀費用額	—	179.5万円

— は調査していません

# 持っている衣類や持ち物の値段と、理想の値段の差が大きい。～本当は欲しいが現状は我慢

衣類・持ち物(仕事など社会的な場に行くとき用)の値段の理想と現実をみると、男性が実際に購入しているスーツの値段の平均は28,773円で、理想は50,379円、およそ2万円強の差があります。女性の靴/バッグの平均は25,171円に対して理想は56,038円で、実際の値段の2倍以上を理想としています。

特に、腕時計の現実と理想の差が大きく、男性は現実が41,647円に対し、理想が158,362円。女性は現実が32,961円に対し、理想は99,587円とおよそ3倍の差になっています。

いずれも衣類・持ち物の理想と現実の差は大きく、本当はもっと良いものが欲しいという本音もうかがえる結果になっています。

＜衣類や持ち物(仕事など社会的な場に行くとき用)の値段の理想と現実＞  
対象者:15～69才

## 男性

## 女性

男性			女性		
現実	理想		現実	理想	
28,773.4円	50,378.8円	スーツ	23,956.4円	37,640.1円	
Yシャツ	3,373.5円	6,346.1円	ワンピース	14,675.6円	24,510.0円
ネクタイ	3,068.4円	6,322.3円	ブラウス	6,033.1円	10,123.5円
9,827.0円	18,748.0円	靴	9,394.0円	16,949.7円	
41,646.8円	158,362.1円	腕時計	32,960.9円	99,586.6円	
12,730.0円	27,459.5円	財布	17,606.5円	32,991.6円	
15,039.9円	35,211.6円	靴/バッグ	25,170.9円	56,038.3円	
1,989.1円	4,105.8円	手帳	1,937.4円	4,021.5円	
18,991.2円	28,798.3円	メガネ	20,964.0円	33,947.8円	
			口紅	2,044.2円	3,025.9円
			ファンデーション	3,148.8円	4,357.8円

## カラダや思考力のピークは？


- ・モテ期は男性26.7才、女性24.2才
- ・肌のハリは男性26.0才、女性25.8才
- ・思考力の鋭さのピークは男性34.5才、女性32.8才

カラダや思考について『あなたが「ピーク」を迎えた(迎える)年齢は』を聞いたところ、それぞれの平均値はトレンド感覚である「流行に敏感」は男性で24.7才、女性で24.3才。外見などの「ルックス」は男性29.1才、女性27.9才、「肌のハリ」は男性26.0才、女性25.8才、「スタイル」は男性28.0才、女性27.7才。「異性にもてた」(モテ期)は男性26.7才、女性24.2才となっています。

内面的には、「思考力の鋭さ」は男性34.5才、女性32.8才、「感性の豊かさ」は34.7才、女性は33.8才。「仕事力」は男性41.3才、女性35.8才となっています。

20代で体力や外見、30代で内面や仕事の充実度がピークになっています。

＜『あなたが「ピーク」を迎えた(迎える)年齢は？』の各平均値＞  
対象者：15～69才

	男性	女性	
流行に敏感	24.7才	24.3才	
運動神経	26.6才	23.1才	
異性にモテた	26.7才	24.2才	
肌のハリ	26.0才	25.8才	
体力	28.5才	27.4才	
ルックス	29.1才	27.9才	
スタイル	28.0才	27.7才	
思考力の鋭さ	34.5才	32.8才	
感性の豊かさ	34.7才	33.8才	
自由にお金を使える	37.1才	35.0才	
仕事力	41.3才	35.8才	

● 日本人の衰えについて、老いは外見から始まり、  
40代半ばで身体機能低下へ

「白髪が気になりだした」は男性40.1才、女性40.3才、「皺が増えた」は男性40.2才、女性39.0才、  
「老眼が気になりだした」は男性45.9才、女性46.2才

● 年金支給開始年齢の引き上げ提案とは逆に、早くリタイアしたい  
人が増えている

衰えについて気になりだした年齢を聞いたところ、「お腹が出てきた」平均値が男性33.9才、女性で33.8才、「皺が増えた」は男性40.2才、女性39.0才。「白髪が気になり出した」は男性40.1才、女性40.3才。「加齢臭が気になってきた」は男性43.9才、女性43.3才。「物忘れが気になりだした」は男性45.2才、女性44.5才。「老眼が気になりだした」は男性45.9才、女性46.2才になっています。外見から衰えを気にし始め、40代半ばで身体的機能を気にし始める傾向が読みとれます(表1)。

また、リタイアしたい年齢を5年前と比較すると、男性は62.5才(2006)→61.4才(2011)と1.1才低下、女性は59.6才(2006)→57.3才(2011)で2.3才低下し(表2)、年金支給開始年齢の引き上げ論が話題になっていますが、それとは逆に早く引退したいという人が増えています。

<表1 『衰えはじめる年齢は?』の平均値>  
対象者:各項目それぞれ衰えを気にしたことのある人

	男性	女性	
お腹が出てきた	33.9才	33.8才	30~40代 前半
顔にたるみができた	43.1才	41.8才	
体力が無くなってきた	39.8才	39.6才	
皺が増えた	40.2才	39.0才	体型 顔面 頭髪
シミが増えた	41.8才	38.5才	
白髪が気になりだした	40.1才	40.3才	
髪が薄くなってきた	40.3才	— 才	40代 半ば
気力が無くなってきた	43.0才	42.0才	
加齢臭が気になってきた	43.9才	43.3才	
物忘れが気になりだした	45.2才	44.5才	
老眼が気になりだした	45.9才	46.2才	
			目 記憶

<表2 リタイアしたい年齢平均>  
対象者:15~69才

— は調査していません

	男性	女性
2006年11月	62.5才	59.6才
2011年10月	61.4才(-1.1才)	57.3才(-2.3才)

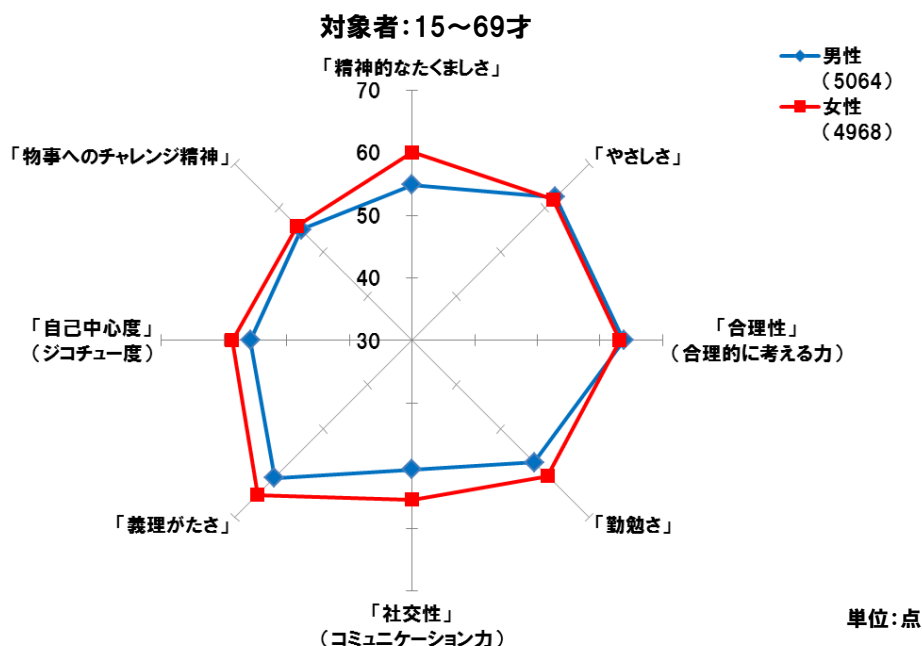
## 5年前と比べ内面の自己評価は低下。特に「やさしさ」「物事へのチャレンジ精神」の低下が大きい

内面の自己評価を男女で比較すると、ほとんどの項目で女性の評価が高くなっています。特に「精神的なたくましさ」は男性54.8点に対して、女性は60.0点で女性が5ポイント以上リードしています(図)。

5年前と比較すると、男女ともすべての項目で低下しており、特に「やさしさ」では男性が67.5点(2006)→62.4点(2011)で5.1ポイント低下し、女性が65.3点(2006)→61.8点(2011)で3.5ポイント低下しています。また、「物事へのチャレンジ精神」では男性が60.2点(2006)→55.0点(2011)、女性が61.4点(2006)→55.9点(2011)で男女とも5ポイント以上低下しています。全体的に男性のほうが低下幅が大きくなっています(表)。

リーマンショックや震災、急激な円高など、この5年間の度重なる日本経済への打撃によって、先行き不透明感で不安が増し、自分のことだけで精いっぱい他人を思いやる余裕がなくなっている、またチャレンジする目標を立てにくい状況になっているのではないかと考えられます。

＜図 自分の内面の評価(100点満点) 男女比較＞



＜表 自分の内面の評価(100点満点)の時系列比較＞

対象者: 15~69才

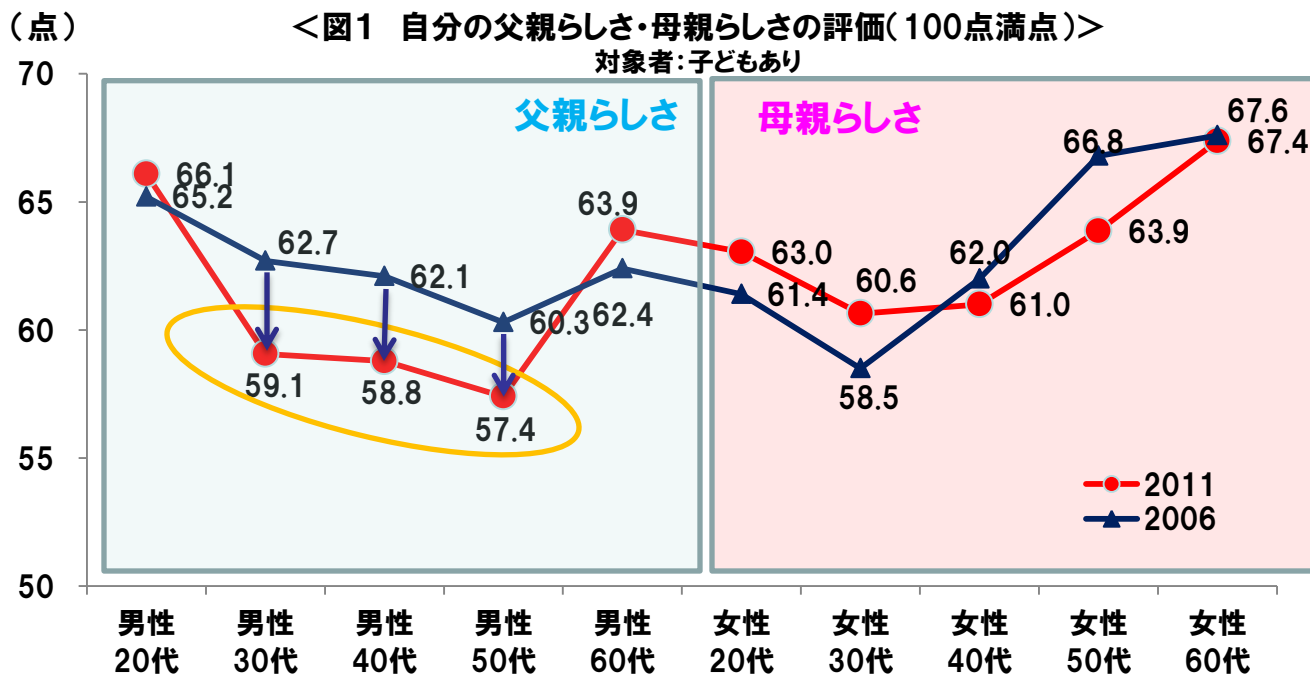
単位: 点	男性			女性		
	2011調査 ① (5064)	2006調査 ② (5042)	5年間の変化 ①-②	2011調査 ③ (4968)	2006調査 ④ (5050)	5年間の年化 ③-④
「精神的なたくましさ」	54.8	56.5	▲ 1.7	60.0	60.4	▲ 0.4
「やさしさ」	62.4	67.5	▲ 5.1	61.8	65.3	▲ 3.5
「合理性」(合理的に考える力)	63.8	65.5	▲ 1.7	63.2	63.5	▲ 0.3
「勤勉さ」	57.6	62.2	▲ 4.6	60.6	62.1	▲ 1.5
「社交性」(コミュニケーション力)	50.6	53.0	▲ 2.4	55.4	57.8	▲ 2.4
「義理がたさ」	61.1	65.0	▲ 3.9	64.9	67.1	▲ 2.2
「自己中心度」(ジコチュー度)	55.8	58.1	▲ 2.3	58.7	60.4	▲ 1.7
「物事へのチャレンジ精神」	55.0	60.2	▲ 5.2	55.9	61.4	▲ 5.5

# どのように子どもに向き合っ良いか自信をなくす 30~50代の父親。親らしさでは自分の親に追いついていない

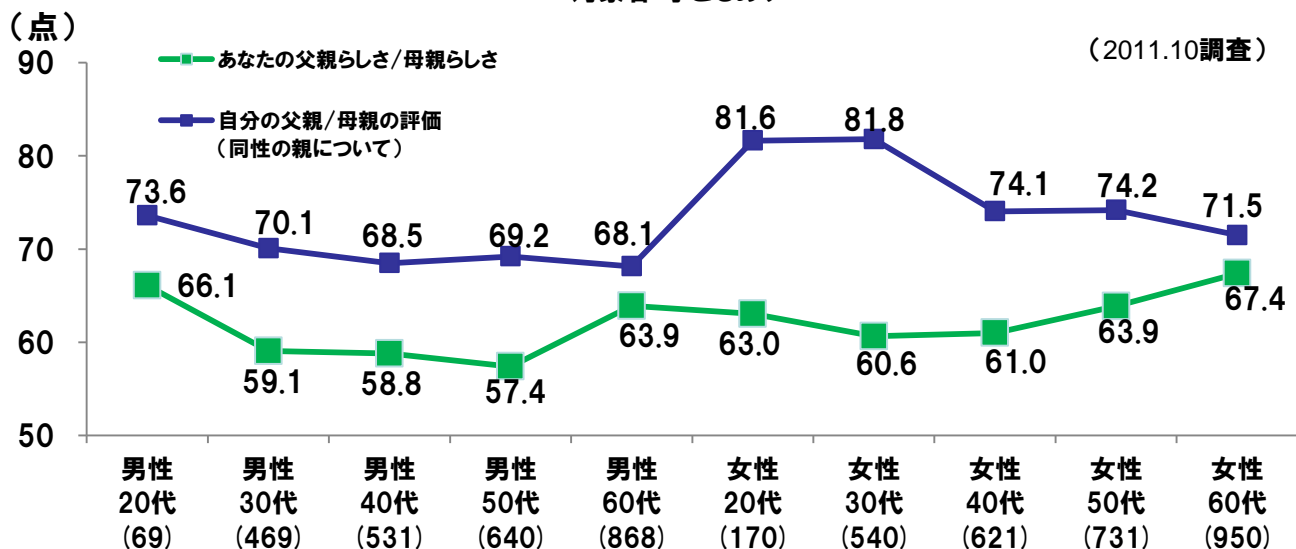
「自分の父親らしさ/母親らしさ」の自己評価を100点満点で評価したものを5年前と比較すると、特に低下が著しいのは、男性30代が62.7点(2006)→59.1点(2011)、男性40代が62.1点(2006)→58.8点(2011)、男性50代が60.3点(2006)→57.4点(2011)、女性50代が66.8点(2006)→63.9点(2011)でいずれの年代もおおよそ3ポイント低下しています(図1)。

男性30~50代は、父親としてどのように子どもに向き合えば良いかわからなくなっていると考えられます。

自分の同性の親と自分の父親・母親らしさの自己評価を比較すると、いずれの年代も自分の親の評価の方が高く(図2)、親らしさで自分の親に追いついていない意識がうかがえます。



＜図2 自分自身の父親・母親らしさの評価と自分の親(同性の親)の評価の比較(100点満点)＞  
対象者:子どもあり



( )はサンプル数